



伊藤 明生

2 単位  
未定

秋 金曜-1限,2限

### <授業の内容とねらい>

神が天と地とそのうちのすべてのものを創造した当初、すべては「良かった」が、アダムとエバが神の戒めに逆らってエデンの園から追放された際に、被造世界全体が墮落した。キリストが十字架にかかってくださったのは、私たち罪人を罪から救い出すためだけでなく、墮落した被造世界を贖い出すためでもあった。キリストは私たち罪人の救い主であるだけでなく、私たちが生かされている被造世界を造り、今も生きてお働きになり、ご支配してくださっている方であり、墮落した被造世界を回復なさる方でもある。私たちは新約聖書を読んで学ぶことで、父なる神と御子なるキリストと聖霊なる神という三位一体の神や私たちがキリストにあって与えられている救いだけでなく、私たちが生かされている被造世界をよりよく知って理解することができる。本科目では、「そもそも新約聖書とはどのような書物なのか？」から始めてヨハネの福音書がどのような福音書か触れた上で、正義、愛、霊性、美、自由、真理、権力という七つの事柄をヨハネの福音書を中心にして見て行く。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 新約聖書とは？
- 第2週 福音書とは？ヨハネの福音書とは？
- 第3週 正義
- 第4週 愛
- 第5週 霊性
- 第6週 美
- 第7週 自由
- 第8週 真理
- 第9週 権力、力
- 第10週 キリストと世界

### <到達目標>

基本的な新約聖書の読み方を習得して、世の中で生きて行く上で新約聖書を読みながら神学的な思索をしながら生きて行く初歩を習得する。

### <授業方法>

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

### <(\*)教科書・参考書>

新改訳聖書 (2017版)

N.T. Wright, Broken Signposts: How Christianity Makes Sense of the World, HarperOne, 2020

『クリスチャンであるとはN・T・ライトによるキリスト教入門』N.T.ライト著、上沼昌雄訳 (あめんど)

『福音の再発見』スコット・マクナイト著、中村佐知訳 (キリスト新聞社)

Truth is stranger than it used to be: Biblical Faith in a Postmodern Age, J. Richard Middleton and Brian J. Walsh (SPCK)

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 20 %

リフレクション (Reflection Papers) 20 %

期末レポート (Final Report) 30 %

期末試験 (Final Exam) 30 %

毎回の授業後にリフレクションペーパーを提出すること (20%)。期末レポートでは、7つの項目のひとつについて詳細に論じること (30%)。期末試験では、どの程度、ヨハネの福音書はじめ授業で取り扱ったことを理解したか問う (30%)。

### <準備学習等に必要時間>

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「新約聖書概論Ⅰ」と同じ内容です。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



菊池 実

2 単位  
未定

秋 金曜-3限,4限

### <授業の内容とねらい>

「キリストと世界」(旧約)/旧約聖書概論1での学びを前提に、旧約各書を概観します。「キリストと世界」(旧約)/旧約聖書概論1では特に旧約聖書全体の背景となる部分(歴史、文化、地理、言語、思想)に焦点を当てました。概論II/旧約通論では、概論Iを土台に可能な限り各書の基本的な内容理解に努めます。各書を歴史と聖書全体の中に位置づけ、文学類型と解釈の前提となる視点を捉え、各書の主題を明確にし、主要な登場人物、出来事の把握、神学的ポイントの把握に努めます。そのうえで、各書に生き生きと語られるメッセージ、またその状況を超えて今日私たちに語る主の声を聞き、また新約聖書を含めた、聖書全体としての一体感を感じていきたいと思えます。概観/通論とはいえ、限られた時間で旧約聖書全体を授業のみでカバーすることは困難です。今後の学びの方法論や旧約聖書への関心としての学びの意味も持ってください。期末のレポートが大変重要な意味を持ちます。また、肝要なのは通読と、参考書当該箇所を読んで、各書のイメージを自分で持つことです。

### <授業テーマと内容>

第1週 五書①(1の残り)、創世記、出エジプト記  
 第2週 五書②☒レビ、民数記、  
 第3週 五書③☒申命記、歴史書概観  
 第4週 歴史書①☒士師記、ルツ記、サムエル記  
 第5週 歴史書② サムエル記  
 第6週 歴史書③☒列王記、歴代誌  
 第7週 歴史書④☒エズラ、ネヘミヤ、エステル  
 第8週 聖文書①☒ヨブ記、詩篇、箴言、  
 第9週 聖文書②☒伝道者の書、雅歌  
 第10週 大預言書☒イザヤ、エレミヤ、哀歌、エゼキエル、

### <到達目標>

「概論」/「通論」の名目のとおり、①旧約聖書各書のおおよその内容をつかみ、著名な人物や出来事を把握し、②同時に、各書間の有機的なかわり、③新約聖書とのかわりをしっかり感じてほしいと思えます。一つの書として大局的にとらえること、他方で各論的につかむこと、それらを目標とします。

### <授業方法>

講義

### <(\*)教科書・参考書>

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度(Class Participation) 10%

期末レポート(Final Report) 80%

その他(Other) 10%

期末レポートが大きな位置を占めています。また、聖書通読を重視します(その他10%)。生涯に一度の旧約の集中的な学びの機会として教員・受講生もこれに真剣に臨みます。

### <準備学習等に必要時間>

聖書通読が準備学習として大きな意味を持ちます。

### <課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

キリストと世界(旧約)/概論I同様、配布するテキストに即してクラスを進めます。講義は、受講者が旧約聖書当該箇所を事前に読んでくることを前提とします。時間的制約があり、各書の扱いが浅薄になる中で、実際に聖書を読むことは本講座で一番重要なこととなります。今年度は本気でOT通読します。

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「旧約聖書概論II」と同じ内容です。



### <授業の内容とねらい>

Iに引き続き、聖書ヘブライ語文法の基本を積み重ねて行きます。この言語において重要な動詞の基本的な変化形の習熟を徹底して目指します。また、動詞の習得とともに、蓄積されたヘブライ語語彙によって、より多くの文例に触れ、ヘブライ語に慣れていきます。特に、履修者は、各課に登場する新しい単語と動詞の活用を記憶するだけでなく、自分にとっての未知の語、未知の形に対する応用できる力を養っていく必要があります。学期終了時には、ヘブライ語聖書中の有名な聖書箇所については、語の分解(parsing)とともに、意味を汲み取れるようになることが期待されます。また、語根から派生する言語の特長をつかみ、日本語訳聖書に現れない原語独自の感性・表現・音・語感を徐々に掴むことを大切にします。そして原語のより繊細な意味に対する探求心が増し加わることがあれば、釈義へと繋がっていきます。この時点ですでに言語としての難しさ以上に聖書を原典で読む喜びや幸いへの感覚を増していくはずで

### <授業テーマと内容>

第1週 第8課形容詞  
第2週 第9課パアル強動詞  
第3週 第9課パアル強動詞  
第4週 第9課パアル強動詞  
第5週 第10課パアル弱動詞  
第6週 第10課パアル弱動詞  
第7週 第10課パアル弱動詞  
第8週 第11課 ニフアル  
第9週 第11課 ニフアル  
第10週 第12課 名詞の合成形 基本的に、各課終了時に小テストを行います。

### <到達目標>

- 1) 新しい課を学ぶ際に、それまでのことが絶えず応用できるような状態となっていること。
- 2) コースを終える頃には、動詞の分解が容易に出来、また、容易な散文体が辞書の助けを借りて読めるようになっていること。

### <授業方法>

講義

### <(\*)教科書・参考書>

\* 聖書ヘブライ語 谷川政美 古代語研究会  
J.A. Cook and R.D. Holmstedt, Biblical Hebrew: An Illustrated Introduction in  
[http://dl.dropbox.com/u/8477225/Textbook/BHII-Readings\\_2010.pdf](http://dl.dropbox.com/u/8477225/Textbook/BHII-Readings_2010.pdf) Brown-Driver-Briggs Hebrew Lexicon

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 30 %

小テスト (Quizzes) 70 %

日々の着実な学習が期待されています。各課終了毎に小テストを行います。小テスト(期末試験含む)は、テキストから出題されま

す。オンライン(ハイブリッド含む)授業の期間中は基本的に自宅で取り組む持ち帰りテスト(参照可)のテストです。各回の小テスト配分は70%と大きくなっていますので大事に考えてください。また、出席20回がそのまま20%に反映され、欠席・遅刻・早退はそこから差し引かれます。また、ZOOMにおいても積極的な参加を求めます(10%)。語学は極力向き合って表情、発音の口元が分かるようにして学ぶことが大事です。

### <準備学習等に必要な時間>

2 時間

### <課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

宿題や小テストはかなり頻繁にあります。各回ごとに採点はT Aが担当して返却します。各回小テストはヘブライ語フォントで打ち込むのは大変ですので各自プリントアウトし、手書きで書き込み、スキャンか写メをして、データでT Aに送っていただきます。

### <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。




---

 <授業の内容とねらい>

Shalom!

ヘブライ語Ⅲでは、谷川政美「聖書ヘブライ語」の残りの部分を可能な限り扱います。本教科書は冒頭からかなり詳細な文法の扱いがあって、例文も平易ではありません。しかし、従来の翻訳ものの文法書にはない丁寧な説明と全般的な網羅があって良き作りにはなっています。最初から日本語で書かれた書としての分かりやすさも当然あります。これにしっかりと取り組み、各課ごとのテーマをとらえていくならば、特に後半の各課は原典講読・釈義への道筋として有意義です。

各課のテーマは、前課までの習熟を前提に提示されていくものです。絶えず復習と反復に努め、仲間と励まし合ってください。また、本学では昨年度よりT.A.(Teaching Assistant)制度を導入し、本講座(ⅠⅡⅢ)とともに大学院生が適宜グループの学び会を開催しています。是非積極的に参加しヘブライ語初級文法の習得を目指してください。

クラスでは並行して、基本的な単語の習得を目指します。また、ヘブライ語辞典(Lexicon)やBHSの使い方を紹介します。また実際の平易なテキスト(散文)にも慣れていくことを心がけます。

---

 <授業テーマと内容>

第1週 第11課 ニファル/第12課 名詞の合成形

第2週 第12課 名詞の合成形

第3週 第12課 名詞の合成形

第4週 第13課 ピエルとプアル

第5週 第13課 ピエルとプアル

第6週 第14課 ヒトパエル

第7週 第15課 前置詞・副詞・接続詞

第8週 第15課 前置詞・副詞・接続詞

第9週 第16課 ヒフィールとホフアル

第10週 第19課 完了形とその用法、第20課 未完了形とその用法

実際の進捗は学生の習熟度(平均よりやや上)に併せますので、上記の「テーマと内容」は一応の目安であり、例年ヘブライ語Ⅲ終了時には13課前後までとなります。講読で文法の続きを行えるように教師間で調整します。各課終了時に小テストを行います。

---

 <到達目標>

動詞の活用(規則的、弱動詞、不規則動詞)の parsing、名詞、形容詞と人称接尾辞の結合の仕方などが整理されていること。また、未知の語形に対して判読能力が養われ、ヘブライ語講読に向けて、必要な準備を自分で出来るようになること。

---

 <授業方法>

---

 <(\*)教科書・参考書>

\* 谷川

Biblia Hebraica Stuttgartensia

---

 <成績評価の方法と基準>

授業参加度(Class Participation) 30%

小テスト(Quizzes) 70%

各課終了毎に小テストを行います。基本的に自宅で取り組む持ち帰りテスト(参照可)のテストです。成績においてその配分は70%と大きくなっていますので大事に考えてください。また、出席20回がそのまま20%に反映され、欠席・遅刻・早退はそこから差し引かれます。また、ZOOMにおいても積極的な参加を求めます(10%)。語学は極力向き合って表情、発音の口元が分かるようにして学ぶことが大事です。

---

 <準備学習等に必要な時間>

3~4時間

---

 <課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

宿題や小テストはかなり頻繁にあります。各回ごとに採点はT Aが担当して返却します。各回小テストはヘブライ語フォントで打ち込むのは大変ですので各自プリントアウトし、手書きで書き込み、スキャンか写メをして、データでT Aに送っていただきます。

---

 <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



### <授業の内容とねらい>

「ギリシア語Ⅱ」は、春学期・秋学期・冬学期を通して学ぶギリシア語文法コースの第二部です。新約聖書を深く理解するためには原典で読解できることが望まれます。新約聖書は、ヘレニズム期に古典ギリシア語が広くヘレニズム世界で使われるようになったコイネー・ギリシア語で書かれています。したがって、新約聖書を原典で読解できるようになるためには、コイネー・ギリシア語の文法的知識が欠かせません。

本授業では、ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』を用いて、動詞の法から名詞の第3変化までの範囲を学びます。具体的には、毎回授業の初めにギリシア語単語の小テストを行って単語力の強化を図ると共に、毎回出される課題と期末まとめ課題に取り組むことで文法知識の定着を目指します。本コースのねらいは、新約聖書をギリシア語原典で読むことを前提にした、コイネー・ギリシア語文法の獲得でありましたが、同時に、新約聖書のギリシア語テキストに徐々に馴染んでいくことでもあります。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第7章 (1)、(2)
- 第2週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第7章 (3)、(4)
- 第3週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第8章 (1)、(2)
- 第4週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第8章 (3)、第9章 (1)
- 第5週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第9章 (2)、(3)
- 第6週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第10章 (1)、(2)
- 第7週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第10章 (3)、第11章 (1)
- 第8週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第11章 (2)、(3)
- 第9週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』 第12章 (3)、(4)
- 第10週 後半の復習・期末試験 (受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。)

### <到達目標>

- ・ギリシア語の単語と文章を自由に書いて読むことができるようになる。
- ・ギリシア語の単文構造を理解し、和訳することができるようになる。
- ・ギリシア語動詞の諸形態を理解し、実際に分析できるようになる。
- ・約200のギリシア語単語の知識を獲得する。

### <授業方法>

講義

### <(\*)教科書・参考書>

- \* 『エレメンツ：新約聖書ギリシア語教本』、ジェレミー・ダフ著、浅野淳博訳、改訂第3版、新教出版社、2020年
- 『改訂新版 新約聖書ギリシア語独習』、玉川直重著、2013年

### <成績評価の方法と基準>

小テスト (Quizzes) 20 %

期末試験 (Final Exam) 40 %

その他 (Other) 40 %

(単語テスト20%、課題40%、期末試験40%)

- ・単語テストは、ギリシア語単語の習得を確認するもので、授業中に行われる小テストです。
- ・課題は、授業内容の理解を確認するもので、次の授業が始まるまでに提出します。
- ・期末試験は、授業全体の理解度を確認するもので、主に課題から出題されます。

### <準備学習等に必要な時間>

クラス外で毎週約360分の学習時間を確保してください。グループ学習も効果的です

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

課題の提出後に解答例を提示しますので、各自で自分の誤りを訂正してください。

### <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



### <授業の内容とねらい>

「ギリシア語Ⅲ」は、春学期・秋学期・冬学期を通して学ぶギリシア語文法コースの第三部です。新約聖書を深く理解するためには原典で読解できることが望まれます。新約聖書は、ヘレニズム期に古典ギリシア語が広くヘレニズム世界で使われるようになったコイネー・ギリシア語で書かれています。したがって、新約聖書を原典で読解できるようになるためには、コイネー・ギリシア語の文法的知識が欠かせません。

本授業では、ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』を用いて、13章から20章までの範囲を学びます。具体的には、毎回授業の初めにギリシア語単語の小テストを行って単語力の強化を図ると共に、毎回出される課題と期末まとめ課題に取り組むことで文法知識の定着を目指します。本コースのねらいは、新約聖書をギリシア語原典で読むことを前提にした、コイネー・ギリシア語文法の獲得であります。同時に、新約聖書のギリシア語テキストに徐々に馴染んでいくことでもあります。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第13章 (1)、(2)
  - 第2週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第13章 (3)、第14章 (1)
  - 第3週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第14章 (2)、(3)
  - 第4週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第15章 (1)、(2)
  - 第5週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第15章 (3)、第16章 (1)
  - 第6週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第16章 (2)、(3)
  - 第7週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第17章 (1)、(2)
  - 第8週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第17章 (3)、第18章 (1)
  - 第9週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第18章 (2)、(3)
  - 第10週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第20章 (1)、(2)
- (受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。)

### <到達目標>

- ・辞書を参照して新約聖書の原典テキストを読解することができるようになる。
- ・ギリシア語の複文構造を理解し、正確に和訳できるようになる。
- ・ギリシア語動詞の時制を理解し、実際に分析できるようになる。
- ・約200のギリシア語単語の知識を獲得する。

### <授業方法>

講義

### <(\*)教科書・参考書>

- \* 『エレメンツ：新約聖書ギリシア語教本』、ジェレミー・ダフ著、浅野淳博訳、改訂第3版、新教出版社、2020年
- 『改訂新版 新約聖書ギリシア語独習』、玉川直重著、2013年

### <成績評価の方法と基準>

小テスト (Quizzes) 20 %

期末試験 (Final Exam) 40 %

その他 (Other) 40 %

(単語テスト20%、課題40%、期末試験40%)

- ・単語テストは、ギリシア語単語の習得を確認するもので、授業中に行われる小テストです。
- ・課題は、授業内容の理解を確認するもので、次の授業が始まるまでに提出します。
- ・期末試験は、授業全体の理解度を確認するもので、主に課題から出題されます。

### <準備学習等に必要な時間>

クラス外で毎週約360分の学習時間を確保してください。グループ学習も効果的です。

### <課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

課題の提出後に解答例を提示しますので、各自で自分の誤りを訂正してください。

### <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



齋藤 五十三

---

<授業の内容とねらい>

救済論はキリスト・イエスにより完成された「贖罪の業」を基盤として、永遠の聖定に基づく救いがどのように人・教会に適用されるかを学びます。救済の秩序 (Ordo salutis) における聖霊の働きを理解し、救済論を聖霊の業として把握することを目指します。聖霊論との関わりも深いため、救済論は聖霊論とも呼べる内容となっています。教会論は、聖霊の働きにより神の子どもとされた者たちが、神の家族という共同体に集められたことの意味と目的を問う学びです。具体的な内容としては、教会の本質を問う「教会のしるし論」、教会におけるキリストの王権を形にするための「教会政治」、聖霊の恵みを受ける「手段」としての「礼典論」がその主な内容となります。終末論は、集められた神の民としての教会が神の国の完成を迎える「終わりのとき」に起こる事柄を扱う学びです。具体的には個人の死と復活までの中間状態を扱う「個人的終末論」と、キリストの再臨を中心として世界が終わりを迎える「一般的終末論」が主な内容となります。

---

<授業テーマと内容>

- 第1週 贖罪論、救済論概要
- 第2週 召命、新生、信仰、回心
- 第3週 信仰義認
- 第4週 神の子どもとしての聖化
- 第5週 救いの確かさ、教会論概要
- 第6週 教会のしるし、教会政治
- 第7週 礼典論 (洗礼、聖餐)
- 第8週 終末論概要
- 第9週 個人的終末論
- 第10週 一般的終末論

---

<到達目標>

二つの目標があります。まず最初に「救済」、「教会」、「終末」理解についてそれぞれ、適切な聖書の根拠を把握しながら理解することが第一の目標です。第二の目標としては、理解したことを自らの言葉をもって証しし、語れるようにすることです。

---

<授業方法>

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

---

<(\*)教科書・参考書>

- \* ハイデルベルク信仰問答
- \* ニューシティカテキズム (CBI出版) \*教員による配付

---

<成績評価の方法と基準>

- 授業参加度 (Class Participation) 20 %
- 発表 (Presentations) 30 %
- 期末試験 (Final Exam) 50 %

---

<準備学習等に必要時間>

前授業の復習、事前課題 (リフレクション) のため、毎週280分を確保してください。

---

<課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

事前課題、復習課題、プレゼンテーション、期末試験それぞれにフィードバックがあります。

---

<その他履修上の注意点>

毎回、ハイデルベルク信仰問答、ニューシティカテキズムの指定箇所を精読して課題を準備してください。本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性もあります。



### <授業の内容とねらい>

キリシタン史を前史として明治期以降のプロテスタント史を中心に概観します。景教伝来の可能性や明治以降のカトリック、ハリストス正教会にも目を配り講義を行います。キリシタン史は日本の宗教政策や日本人性を理解するためにも重要であるのでしっかりと扱います。これは近代のプロテスタント史を理解する上でも不可欠です。プロテスタント史においては、近現代のキリスト教史における「教会と国家」の課題を日本における特殊性をふまえて考察し、今日的課題をも探ります。キリスト教と文化・社会との係わり、具体的には聖書翻訳や讃美歌、文学、戦争、社会事業などにも言及しますが、主には日本における宣教や教会形成について扱います。日本のキリスト教史全体をとらえることをめざしますが、特に東京基督教大学と関係の深い福音派教会の特質についての理解を深めることを意識します。専門用語が多く、史料紹介も行なうため、日本語および日本史の知識が前提として必要とされます。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 日本キリスト教史の視点、時代区分と文献紹介、景教伝来の可能性
- 第2週 キリシタンの世紀、布教の進展とキリシタンの教理
- 第3週 キリシタン禁制史、殉教と鎖国体制
- 第4週 プロテスタント宣教師と幕末明治の日本
- 第5週 プロテスタント受容の特質、横浜、熊本、札幌、静岡、松江
- 第6週 明治期の伝道の諸相、受容の特質
- 第7週「日本」とのキリスト教の衝突、戦争と教会
- 第8週 大正期のプロテスタントの「成長」、朝鮮のリバイバルとの比較
- 第9週 戦時下の教会の苦悩、神社参拝・教会の罪責
- 第10週 戦争責任の自覚、戦後プロテスタントの展開

### <到達目標>

教会教職・信徒奉仕者を志す人には日本における教会形成の課題の理解、クリスチャンとして日本に生きる意味を考えることを期待します。留学生には、日本と日本の教会文化を理解することを期待します。日本キリスト教史研究への関心、歴史的意識を持つことを願うのみならず、卒業論文につながるテーマとの出会いも期待します。

### <授業方法>

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 討議 (ディベート), 反転授業 (事前学習前提)

### <(\*)教科書・参考書>

- 中村 敏『日本キリスト教宣教師一ザビエル以前から今日まで』いのちのことば社
- 大村晴雄『日本プロテスタント小史』いのちのことば社
- 中村 敏『日本における福音派の歴史』いのちのことば社
- 鈴木範久『日本キリスト教史 年表で読む』教文館
- 五野井隆史『日本キリシタン史の研究』吉川弘文館
- 『日本キリスト教歴史大事典』教文館
- 『日本キリスト教歴史人名事典』教文館

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %

リフレクション (Reflection Papers) 20 %

中間レポート (Midterm Report) 20 %

期末レポート (Final Report) 50 %

レジュメの指定ページを読み、毎回、講義の感想・質問を書いてもらい、次回それに応答する時間を持ちます。欠席はもとより遅刻・早退についても連絡を怠らないことを含め平常点とします (30%)。中間レポートはブックレポートです。期末レポートは、各自がテーマを自由に設定します。教科書と講義の範囲内で、テーマを絞り込み、引用文献を用い、A4の用紙に4000~6000字で書いてもらいます (50%)。

### <準備学習等に必要な時間>

講義は2時間 (20分は質疑応答形式) を目安に行ないます。毎回3時間程度の事前学習をしてください。期末のレポートには相当の時間が必要です。

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

日本史の知識が不十分な人は、その点での事前学習を行なってください。本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



岡村 直樹

---

<授業の内容とねらい>

「ユースミニストリーの神学と実践」は、福音的な神学、福音的な聖書理解の基礎に立ちつつ、教育学、心理学、社会学、牧会学等の多様な側面から、現代のユース（主に中・高生）と彼らへのミニストリーについて考えるクラスです。学生は、まず「ユース」と「ミニストリー」というそれぞれの言葉の意味について学習し、対象者が誰であるか、そして具体的にどのような働きなのかを知るところから学びを始めます。聖書に書かれたユースミニストリーに関する記述を調べ、ユースミニストリーの研究が盛んな米国での取り組みについて学び、更にユースミニストリーに関わる者がどのような心構えとトレーニングを必要とするかについて考察します。学期の中盤では、ユースミニストリーの現場で働く先生から直接話しを聞き、またユース教育に有効的なナラティブ・メソッドの用法を学びます。学期最後には、具体的なミニストリーの取り組みのアイデアに関する学生によるクラス発表から、相互評価を通して学び、既成の概念にとらわれないユニークなユースミニストリーへのアプローチを共に模索します。

---

<授業テーマと内容>

- 第1週 ユースミニストリーの神学と聖書
- 第2週 教会とミニストリーの方針
- 第3週 思春期の心理
- 第4週 ユースミニストリーとリーダーシップ
- 第5週 ユースミニストリーの新しい展開
- 第6週 ユースを対象としたキャンプミニストリー
- 第7週 ユースを対象とした教会教育
- 第8週 ユースとのコミュニケーション
- 第9週 ユースミニストリーの実践①
- 第10週 ユースミニストリーの実践②

---

<到達目標>

- ① 聖書に記された「ミニストリー」の概念を理解し、それに基づいたユースミニストリーを展開する力を養うこと。
- ② ユース期の心の様子を理解し、実践的に当てはめて考察できるようになること。
- ③ ユースにとってわかりやすいメッセージを語れるようになること。

---

<授業方法>

講義, 演習, 実技, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

---

<(\*)教科書・参考書>

---

<成績評価の方法と基準>

- リフレクション (Reflection Papers) 10 %
- 中間レポート (Midterm Report) 30 %
- 発表 (Presentations) 30 %
- 期末レポート (Final Report) 30 %

---

<準備学習等に必要時間>

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

---

<課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

---

<その他履修上の注意点>

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「ユースミニストリーの神学と実践」と同じ内容です。  
 本科目は、ユース・スタディーズ副専攻(総合神学科カリキュラム)の対象科目です。  
 本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

---

<教員の実務経験>

この科目は、私の牧師(米国カリフォルニア州、ウインターズバーク長老教会)としての実務経験を活かして提供します。



岡村 直樹

### <授業の内容とねらい>

同年代のユース同士の関係性が、思春期において非常に重要な役割を果たす事は、社会学や心理学分野の研究を通して周知の事実となっているが、多くの場合社会は、その関係性をネガティブなものとする傾向がある事を否めない。アルコールアブユーズ、校内暴力問題、不純異性交遊、ゲーム依存といった問題は、思春期文化の悪影響であると考えられてしまうようである。しかし近年多くの研究者による、同年代の若者同士の関係性や思春期文化がユースに与えるポジティブな影響についての言及が増加しつつある。このクラスでは、ユースの精神的成長、社会的成長、そして霊的成長に焦点を当てつつ、教会やその他のクリスチャングループがユースに対してどのようなアプローチをするべきかを考える。このクラスではさらに、インタビューを中心としたユースに対する質的研究を通して、実際にユースから学ぶ。ユースとのラポール形成を目指し、将来のユースミニストリーへ備える取り組みを行う。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 思春期の心理的発達#1
- 第2週 思春期の心理的発達#2
- 第3週 「包帯クラブ」
- 第4週 非言語コミュニケーション
- 第5週 思春期の文化#1
- 第6週 思春期の文化#2
- 第7週 人間関係のダイナミクス#1
- 第8週 人間関係のダイナミクス#2
- 第9週 若者とキリスト教世界観
- 第10週 教会とワーシップ

### <到達目標>

- 1) 思春期文化の様々な影響（ポジティブとネガティブ）について説明できるようになること。
- 2) クリスチャンユースを対象者とする質的研究の方法を会得すること。
- 3) クリスチャンユースを対象者とする質的研究を実施し、その結果についてクラスで話し合うこと。

### <授業方法>

講義, 演習, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

### <(\*)教科書・参考書>

### <成績評価の方法と基準>

- リフレクション (Reflection Papers) 20 %
- 中間レポート (Midterm Report) 30 %
- 発表 (Presentations) 20 %
- 期末レポート (Final Report) 30 %

### <準備学習等に必要な時間>

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

本科目は、ユースミニストリー副専攻 (神学科・国福科カリキュラム) の対象科目です。  
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



朝岡 勝

### <授業の内容とねらい>

本講義では、神学諸科における信条学の位置づけと意味づけを考えることから始まり、次に「聖書と信仰告白」の関係、「教義と信仰告白」の関係、「教会と信仰告白」の関係を教義学的に整理し、その意義を考察します。

続いて古代教会における信条成立史を概観し、その代表的な信条である使徒信条、ニカイア信条、ニカイア・コンスタンティノポリス信条を緒論的に考察します。

さらに今学期はニカイア・コンスタンティノポリス信条のテキストを読み進め、特に神論、キリスト論、聖霊論などの基本的な教理の内容理解に努め、それらを通して、信仰告白文書の今日における意義や、信仰告白の私たちにとっての意味づけを考えます。

受講生の皆さんには単に信仰告白文書についての知識を得るのみならず、「信仰を告白する」という行為の持つ神学的・信仰的な意味を考えていただきたいと願っています。歴史神学、組織神学的な思考を養うことにも通じるクラスを目指します。

### <授業テーマと内容>

第1週 信条学とは何か 神学諸科における信条学の位置づけを巡って

第2週 信仰告白とは何か その基本的性格

第3週 古代信条の成立

第4週 ニカイア信条緒論

第5週 ニカイア信条の神論

第6週 ニカイア信条のキリスト論①

第7週 ニカイア信条のキリスト論②

第8週 ニカイア信条の聖霊論①

第9週 ニカイア信条の聖霊論②

第10週 信仰告白と私たち

### <到達目標>

本講義の到達目標は以下の四点です。

- ①信仰告白成立の歴史的な経緯を理解すること
- ②各信仰告白文書の読解力を身に着けること
- ③信仰告白の今日的意義を神学的に考察する力を養うこと
- ④学んだ内容を用いて的確に論述する力を養うこと

### <授業方法>

講義

### <(\*)教科書・参考書>

- \* 朝岡勝『ニカイア信条を読む』、いのちのことば社、2016年
- 小高毅「クレド〈わたしは信じます〉キリスト教の信仰告白」、教友社、2010年
- 関川泰寛『ニカイア信条講解 キリスト教の精髓』、教文館、1995年
- 渡辺信夫『古代教会の信仰告白』、新教出版社、2002年
- J.N.D.ケリー『初期キリスト教信条史』、一麦出版社、2011年

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 40 %

リフレクション (Reflection Papers) 20 %

期末レポート (Final Report) 40 %

### <準備学習等に必要な時間>

講義で取り扱う信仰告白文書のテキストを手許に置き、できる限り事前に読んで講義に臨んでください。

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

クラスは原則的に講義ノートを配布して行いますが、必要な参考文献はその都度お知らせします。また教科書として朝岡勝『ニカイア信条を読む』（いのちのことば社）を使用しますので、ご準備ください。積極的な質問などの授業参加をよろしくお願いします。本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



大嶋 重徳

### <授業の内容とねらい>

教会に関する理論と実践に関する学びは、学部では神学演習（教会教職）Ⅰ・Ⅱで、大学院では実践神学演習Ⅰ・Ⅱでも重ねて扱われています。

今年度この授業においては「教会とはなにか」考え学びたいと思います。

牧師になるならないを問わず「教会とはなにか」という大牧者なるイエスキリストに教会されることを経験したいと願ってます。そして遣わされた場所どこにおいても、キリストの教会を実現するような信仰と人格へと成長していくことを目標とします。

また牧会学の講師を務める私は長らく学生伝道の働きに仕えてきました。その意味でも若者の心に寄り添う教会とは何かと考えていきたいと思っています。さらに演習科目でもありますので、とりわけ説教で教会することの実際を取り組んでいきたいと思っています。また講義期間中には、誰か一人の魂を具体的にあげて、その魂に神の心遣いがいかなることで、どのように魂の配慮をなしていくのかということを実践的に考えていきたいと思っています。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 教会とは何か 魂の配慮
- 第2週 教会とはなにか 聖書の教会者たち
- 第3週 若者世代を教会する イエス・キリストの歩き方
- 第4週 説教で教会する
- 第5週 説教黙想と作成の実際
- 第6週 説教演習①
- 第7週 説教演習②
- 第8週 教会と祈り 礼拝における教会祈禱を書く
- 第9週 牧会的な対話と聴くこと
- 第10週 教会と伝道 世界を教会する

### <到達目標>

このクラスの到達目標は牧師になるならないを問わず、「教会とはなにか」ということを学び、教会者として世界に遣わされていくことを学びます。また牧会的な説教を作成することによって、教会の業が説教のことばにまで昇華することも目標とします。

### <授業方法>

講義, 演習, 実技, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

### <(\*)教科書・参考書>

- 大嶋重徳「若者と生きる教会」
- \* 大嶋重徳「若者に届く説教」
- トゥルナイゼン「牧会学」
- J・T・マクニール「キリスト教教会の歴史」
- 中村佐知「魂をもてなす」
- スポルジョン「牧会入門」
- 慰めの共同体・教会

### <成績評価の方法と基準>

- 授業参加度 (Class Participation) 40 %
- リフレクション (Reflection Papers) 20 %
- 発表 (Presentations) 20 %
- 期末レポート (Final Report) 20 %

### <準備学習等に必要な時間>

毎回の授業に対して、示された書籍や資料を読みつつレポートを書いていくために

### <課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

出されたレポートはできる限りコメントを付して返します。

### <その他履修上の注意点>

やむを得ない場合を除いて、3回欠席したら失格とします。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



岩田 三枝子

DP4  
2単位  
未定

冬 木曜-1限,2限

### <授業の内容とねらい>

講義では、まず、自分たちにとって身近なライフプランを見つめなおすことにより、女性を取り巻く現代の状況への理解を深める。その後、女性を取り巻く状況のこれまでの歴史を振り返る作業として、フェミニズム運動の発祥の地としてのヨーロッパ、その影響を受けたアメリカや日本の女性たちの歴史を学ぶ。その中でも特に、キリスト教とのかかわりの深い女性たちによる活動に光を当てる。最後に、共立研究所の前身である共立女子神学校にスポットをあて、アメリカ人女性宣教師や日本人女子学生など、当時の共立女子神学校を取り巻く女性たちの社会的背景をたどる中で、日本の初期女子教育、キリスト教伝道の背後にあった歴史の中の神の摂理に触れたい。

学生によるインタビュー、ニュース企画、プレゼンテーション等からも多くを学ぶことが期待される。

本授業を通して、社会の中での女性の役割や女性の生き方を多角的に学ぶことにより、女子学生、男子学生の両方にとって、今後の家庭・教会・社会の中での歩みがより実り豊かなものとなることを願う。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 イントロダクション (岩田)
- 第2週 私たちの社会と女性
- 第3週 女性史1
- 第4週 女性史2
- 第5週 女性史3
- 第6週 女性史4
- 第7週 女性史5
- 第8週 女性史6
- 第9週 受講生によるプレゼンテーション
- 第10週 受講生によるプレゼンテーション

### <到達目標>

- 1) 女性を取り巻く歴史的、また今日的な諸問題を知ること。
- 2) 男性、女性がそれぞれに自分の「性」と向き合い、その意義を積極的に捉えるようになること。
- 3) 男性、女性がそれぞれに異なる「性」を尊重し、互いにとっての有益な関係のあり方を考えるようになること。

### <授業方法>

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

### <(\*)教科書・参考書>

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %  
中間レポート (Midterm Report) 70 %  
発表 (Presentations) 20 %

### <準備学習等に必要時間>

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

### <課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「女性と社会」と同じ内容です。  
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



### <授業の内容とねらい>

このクラスでは、キリスト教の世界観、特に福音的な聖書観に立脚しつつ、神の創造された人間の心について共に学びます。心理学 I では、心理学の全体像を概観しつつ、主に発達心理学を学びの中心としました。心理学 II では、臨床心理学を中心に学びます。臨床心理学は、精神障害や心理的な問題、不適応行動などの援助や回復、予防またはその研究を目的とする心理学のひとつの分野です。単にこころに問題を抱える人に働きかけるだけでなく、精神的健康を保持、増進、または教育するといった予防も目的のひとつとなっています。臨床的な心のケアを考える上で、避けられるべきことは、私たちが勝手に、自分の尺度で、他者の心の動きを「健康だ」「不健康だ」と決めつけることです。良くないと感じてしまう他者の「問題行動」でさえも、その人にとってみれば、重要な意味を持つことも少なくありません。大切なのは、考え方や行動を「とにかくやめさせる」ことではなく、その意味をしっかりと理解した上で、対処の方法を考えることです。このクラスでは、心理学 I に引き続き、堀越勝著の「感情のみかた」を読みつつ、特に重要他者とのコミュニケーション力をつけていきます。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 心理学 I の復習と臨床心理学の基礎
- 第2週 映画「なんだかおかしい物語」
- 第3週 こころの問題と教会
- 第4週 うつ、双極性障害
- 第5週 統合失調症
- 第6週 発達障害
- 第7週 虐待、ひきこもり
- 第8週 摂食障害、依存症、LGBT
- 第9週 高齢者の心理
- 第10週 期末試験

### <到達目標>

- ① キリスト教会が心の病を持つ人にとってどうよりそうべきかについて明確な意見を持てるようになること。
- ② 臨床心理学の基礎知識を身につけること。
- ③ 学生が、自らの「感情」の様子や動きに敏感になり、それを受け入れることができるようになること。

### <授業方法>

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

### <(\*)教科書・参考書>

### <成績評価の方法と基準>

- リフレクション (Reflection Papers) 40 %
- 中間レポート (Midterm Report) 10 %
- 期末試験 (Final Exam) 50 %

### <準備学習等に必要時間>

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

- 本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「心理学II」と同じ内容です。
- このクラスはユースミニストリー副専攻の必修科目です。
- 本科目は、ユース・スタディーズ副専攻 (総合神学科カリキュラム) の対象科目です。
- 本科目は、社会福祉主事養成科目です。
- 本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



伊藤 明生

2 単位

未定

秋 水曜-3限,4限

### <授業の内容とねらい>

本科目は、パウロがピリピ教会に書き送った手紙をひとつの例として取り扱って、他のパウロ書簡を読み解く糸口とする。身柄を拘束されて裁判を受けているパウロがピリピの教会に宛てて書き送った手紙がピリピ人への手紙である。パウロとピリピの教会との関係は非常に良好で、本書簡を「家族の手紙」または「友情の手紙」として読み解くことが一般的である。ところが、ポール・ホロウェイは、ピリピ人への手紙を「慰めの手紙」として読むことを博士論文で提唱して、昨今注解書を仕上げ、出版されるようになった。ここでいう「慰めの手紙」とは、同情したり、哀悼の意を表したりすることではなく、哲学的な課題として、この世の問題や苦難とどう向き合うかという意味での「慰め」である。ピリピ人への手紙を「家族の手紙」または「友情の手紙」として読むのと、「慰めの手紙」として読むのでは、釈義・解釈は大きく異なってくる。ピリピ人への手紙を「慰めの手紙」として読むということは、ギリシア・ローマの哲学の文化脈でピリピ人への手紙を読むことになる。

### <授業テーマと内容>

第1週 インTRODクシヨン：ピリピ人への手紙の緒論問題  
 第2週 1章前半  
 第3週 1章後半  
 第4週 2章前半  
 第5週 2章後半  
 第6週 3章前半  
 第7週 3章後半  
 第8週 4章前半  
 第9週 4章後半  
 第10週 総括：「慰め」の手紙としてのピリピ人への手紙

### <到達目標>

新約聖書の中でもパウロ書簡、パウロ書簡の中でもコロサイ人への手紙を当時の時代背景、文化脈、思想の枠組みで読み解く際に、何をしなければならないか、何が必要か、どのようにするか取っ掛かりを修得すること。旧約聖書やユダヤ教的な背景だけではなく、時には、書によってはギリシア・ローマ的な背景も新約聖書を読み解く際には、重要であることを熟知すること。

### <授業方法>

講義, 演習, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

### <(\*)教科書・参考書>

Novum Testamentum Graece Nestle-Aland 28. revidierte Auflage (Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft, 2012)  
 N.T. Wright and Michael Bird, The New Testament in its World  
 Paul A. Holloway, Philippians (Hermeneia)  
 Paul A. Holloway, Consolation in Philippians  
 Gordon Fee, (New International Commentary on the New Testament)  
 Joseph Hellerman, Philippians (Exegetical Guide to the Greek New Testament)  
 Gerald Haqwthorne and Ralph Martin, Philippians (Word Biblical Commentary)  
 John Reumann, (Anchor Bible)  
 Markus Bockmuehl, (Black New Testament Commewntary)  
 Moises Silva, Philippians (Baker Exegetical Commentary on the New Testament)

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %  
 リフレクション (Reflection Papers) 10 %  
 期末レポート (Final Report) 40 %  
 期末試験 (Final Exam) 40 %  
 毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出すること (10%)。期末レポートとしてはパウロ書簡から箇所を選んで釈義レポートを作成して提出すること (40%)。期末試験ではパウロ書簡を研究したり、釈義したり、説教したりすること全般について問う (40%)

### <準備学習等に必要な時間>

授業での発表準備には最低数時間は必要でしょう。それをレポートにまとめるには、さらに数時間は不可欠だと思います。

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



木内 伸嘉

2 単位  
未定

冬 火曜-3限,4限

---

<授業の内容とねらい>

旧約聖書「預言書」の理解のためには、同時代を描く預言書間の比較が有益です。本コースでは、特にバビロン捕囚期の預言者エゼキエルとエレミヤを取り上げ、旧約聖書の正典の中で預言者エゼキエルがどのような役割とメッセージを担ったかについて、同時代の預言者エレミヤとの比較を通して考察します。本科目では、必要に応じてヘブライ語テキストを用い、預言書研究の性格及び研究方法について専門的な知識と能力を習得することを目的とします。授業は、エゼキエル預言の特徴についての講義を含むものの、ほとんどが演習形式となります。

学生は、エレミヤ書とエゼキエル書、それぞれの特徴を理解し、提示されるテーマの中からひとつを選び、研究発表をします。そのことを通し、ご自身の民を滅ぼされた神、そして、そのメッセージを担った二人の預言者の預言を通して、イスラエルの神の御性質、人間の罪深さについての認識を深め、同時に預言書研究の興味深さが発見できるよう期待されています。

---

<授業テーマと内容>

第1週 エゼキエル書の特徴①：本文、言語・文体、構造、正典性

第2週 エゼキエル書の特徴②：律法との関連

第3週 エゼキエル書の特徴③：さばきの預言

第4週 エゼキエル書の特徴④：回復の預言

第5週 エゼキエル書の特徴⑤：神殿の神学

第6週 エレミヤ書との比較①

第7週 エレミヤ書との比較②

第8週 エレミヤ書との比較③

第9週 エレミヤ書との比較④

第10週 総括 第一週から第5週までは、半分が講義、半分が演習、第六週からは演習です。

---

<到達目標>

エレミヤ書もエゼキエル書も、神がご自身の民を滅ぼすことについての預言である。しかし、同じ出来事を異なった視点で語るこれら二つの書物の比較を通し、それぞれの特徴が浮き彫りにされることを学び取り、その方法を以て他の預言書にも適応する能力を養うことが目標である。

---

<授業方法>

講義, 演習, 発表(プレゼンテーション)

---

<(\*)教科書・参考書>

Biblia Hebraica Stuttgartensia

J.G. McConville, Judgment and Promise: the Message of Jeremiah. Winona Lake/Leicester: Eisenbrauns/Apollos, 1993.

P.C. Craigie, P.H. Kelly & J.F. Drinkard, Jeremiah 1-25. Dallas: Word, 1991.

G.L. Keown, P.J. Scalise/T.G. Smothers, Jeremiah 26-52 Dallas: Word, 1995.

M. Greenberg, Ezekiel 1-20. New York: Doubleday, 1982.

---

<成績評価の方法と基準>

学生は、指導教官との話し合いの中で特定のテーマを決め、そのテーマにおいてエレミヤ書とエゼキエル書を比較する。発表を通して、他の学生と指導教官から更なる示唆を受け、最終レポートとして提出する。

---

<準備学習等に必要時間>

各授業に平均3時間程度。

---

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

---

<その他履修上の注意点>

ヘブライ語の知識が必要です。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



岡村 直樹

2 単位  
未定

秋 火曜-3限,4限

### <授業の内容とねらい>

本科目は、宗教的回心や献身といった宗教と人間の関係性の変化に関わる現象に着目し、そのプロセスや心理メカニズムの理解を目指します。ジェームス・ファウラー (Emory University) の心理的発達理論を応用した「信仰発達論」から、宗教心の発達の基本概念を学び、続けて、ジョン・ロフランド (University of California, Davis) 等の研究を通し、宗教的回心の類別や、それらの社会的・文化的・心理的背景との関連における宗教心の発達について考察します。また後半は、現代日本の教会が直面する心理的課題や問題について話し合います。まず、クリスチャン・リーダーとして持つべき「心の健全さ」とは、どのような状態を指すのかについて、個人差も十分に考慮しつつ考えます。その上で、今日的課題である、うつ、発達障害、アダルトチルドレン、高齢者の心理的課題、死の準備と看取りといったトピックを取り上げ、教会の対応について共に考えます。授業形態は、講義と演習を併用します。

### <授業テーマと内容>

第1週 ①宗教性の発達：聖書の教える成長と発達心理学の基本概念  
 第2週 ②宗教性の発達：ジェームス・ファウラーの信仰発達論・理論  
 第3週 ③宗教性の発達：ジェームス・ファウラーの信仰発達論・応用  
 第4週 ④宗教性の発達：若者の信仰発達とその課題  
 第5週 ⑤宗教性の発達：中高年の信仰発達と課題  
 第6週 ⑥宗教と心理的ケア：メンタルヘルスと教会  
 第7週 ⑦宗教と心理的ケア：うつと自殺予防  
 第8週 ⑧宗教と心理的ケア：発達障害とアダルトチルドレン  
 第9週 ⑨宗教と心理的ケア：高齢者の心理的課題  
 第10週 ⑩宗教と心理的ケア：死の準備と看取り

### <到達目標>

- (1) 宗教的回心や献身といった宗教と人間の関係性の変化に関わる現象、及びそのプロセスやメカニズムを理解すること
- (2) ジェームス・ファウラーの宗教心の発達の基本概念、ジョン・ロフランドの宗教的回心の類別、及びそれらの社会的・文化的・心理的背景との関連における宗教心の発達について理解すること
- (3) キリスト教が重視する「共感力の涵養」「相互愛の形成」を宗教心の発達という観点から深く考察できるようになる事

### <授業方法>

### <(\*)教科書・参考書>

岡村直樹 「クリスチャンユースの信仰成長に関するグランドセオリーを用いた質的研究」 『キリスト教教育論集』  
 日本キリスト教教育学会, 2010年, 1~16頁。  
 岡村直樹 「シニアミニストリーとスピリチュアリティの質的研究」  
 『キリストと世界』(東京基督教大学紀要)第19号, 2009, 113~137頁。  
 堀江宗正 『歴史のなかの宗教心理学—その思想形成と布置』 岩波書店, 2009年。  
 James W. Fowler, Stages of Faith. New York: Harper One, 1995.  
 James Fowler, Faith Development and Pastoral Care. Minneapolis: Augsburg Fortress, 1987.

### <成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %  
 リフレクション (Reflection Papers) 30 %  
 中間レポート (Midterm Report) 30 %  
 期末レポート (Final Report) 30 %

### <準備学習等に必要時間>

クラス時間の約2倍の時間 (4~5時間) を、本クラスのために用いる毎週の学習時間とすること。

### <課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



岡村 直樹

2 単位  
未定

冬 火曜-3限,4限

### <授業の内容とねらい>

日本の公教育における宗教教育に関する議論や研究を対象とする「宗教教育」とは異なり、欧米の多くの高等教育機関において確立した学問である「宗教教育学(Religious Education)」は、宗教の概念、教義、儀式、習慣、歴史等の伝達プロセスやその方法論等を取り扱います。前半は、講義形式で宗教教育学の歴史的背景と全体像を把握しつつ、今日における宗教教育学的視点の有用性や課題について理解を深めます。後半は、宗教教育学研究の第一人者であるメリー・エリザベス・モアーが提唱する5つの宗教教育方法論と、それらの実践的取り組みについて演習形式で学びます。(モアーは「開かれた教育」「開かれた教育者」の必要性を主張する今日の北米における宗教教育の牽引者の一人です。彼女の唱える真の教育者の姿とは、既成概念に縛られる事なく、世界で起こる様々な出来事に生徒の目を向けさせ、教育の対象である生徒との関係性を重視しつつ、自らも彼らからも学ぼうと心がけ、常に新しい学びの可能性に目を向ける教育を行う教育者です。)

### <授業テーマと内容>

- 第1週 なぜ宗教教育なのか
- 第2週 「多様性と課題」受講生発表とディスカッション
- 第3週 宗教教育と環境①
- 第4週 宗教教育と環境②
- 第5週 教育構造の多様性と移り変わり
- 第6週 宗教教育の方法論①：プロセス現象学的方法論
- 第7週 宗教教育の方法論②：ナラティブ・メソッド
- 第8週 宗教教育の方法論③：デベロップメンタル・メソッド
- 第9週 新しい宗教教育プログラムの構築①
- 第10週 新しい宗教教育プログラムの構築②

### <到達目標>

- (1) 宗教教育学という学術分野の歴史的背景とその全体像を把握し、キリスト教におけるその位置を理解すること。
- (2) メリー・エリザベス・モアーが提唱する5つの宗教教育方法論と、それらの実践的取り組みについて理解すること。

### <授業方法>

講義, 演習, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

### <(\*)教科書・参考書>

岡村直樹 「メリー・エリザベス・モアーのプロセス現象学的教育論とその展開」『キリスト教教育論集』

日本キリスト教教育学会, 2011年, 29~46頁。

Naoki Okamura, "Intercultural Encounters as Religious Education." The Journal of the Religious Education 104. May-June 2009, pp. 289-302.

Thomas H. Groome, Christian Religious Education. New York: John Wiley & Sons, 1999.

Robert W. Pazmino, Principles and Practice of Christian Education. Eugene: Wipf and Stock Publishers, 2002.

M. E. Moore, Teaching From Heart: Theology and Educational Method. Valley Forge: Trinity Press International, 1998.

### <成績評価の方法と基準>

- 授業参加度 (Class Participation) 10 %
- リフレクション (Reflection Papers) 10 %
- 中間レポート (Midterm Report) 20 %
- 発表 (Presentations) 30 %
- 期末レポート (Final Report) 30 %

### <準備学習等に必要時間>

クラス時間の約2倍の時間(4~5時間)を、本クラスのために用いる毎週の学習時間とすること。

### <課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



山口 陽一

2 単位

未定

秋 水曜-5限,6限

### <授業の内容とねらい>

学部の「日本キリスト教史（通史）」はアジア太平洋戦争期までを扱い、大学院の「日本キリスト教史」は日本プロテスタントの戦後史を扱います。最初の2回で講義を行い、戦中と戦後にそれぞれ一回ずつをあてて概観します。3回目は学生全員が一冊ずつ各個教会100年史を読みディスカッションを行います。ここでは教会における歴史資料保存や教会史の執筆についても考えます。7回は学生の発表に基づく演習です。演習は、戦後70年を7回に分け、その時代について考察しますが、学生はそれぞれその時代のテーマを決めて発表します。これは最初の時間に相談して決めます。発表に基づいて教員の解説も加えつつ、全員での討論を行います。本学の背景にあるプロテスタント福音派の戦後史を、いわゆる主流派のそれと比較検討し、その特徴と課題を考察します。こうした検討を通して、学生は自分の所属教会のおかれた位置を確認し、これを尊重しつつ他のキリスト教とも協働できるよう教会史的知識を身につけることをめざします。

### <授業テーマと内容>

- 第1週 アジア太平洋戦争下の「日本的キリスト教」
- 第2週 プロテスタントの戦後史概論
- 第3週 各個教会史から見た戦中戦後、教会アーカイブスについて
- 第4週 1945年～1954年
- 第5週 1955年～1964年
- 第6週 1965～1974年
- 第7週 1975～1984年
- 第8週 1985～1994年
- 第9週 1995～2004年
- 第10週 2005～今日

### <到達目標>

日本のキリスト教の戦中と戦後の歴史についての基本的知識を身につけること。そこにある教会史的重要課題を把握すること。自分が属する教派の特徴を理解すること。以上をふまえてキリスト教会全体と日本社会における使命を確認する。

### <授業方法>

### <(\*)教科書・参考書>

- 中村敏 『日本キリスト教宣教史』 いのちのことば社、2009年。
- 山口陽一他 『教会アーカイブズ入門 記録の保存と教会史編纂の手引き』 いのちのことば社、2010年。
- 日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 『日本キリスト教史年表 改訂版』 教文館、2006年。
- 土肥昭夫 『思想の社 日本プロテスタント・キリスト教史より』 新教出版社、2006年。
- 日本福音同盟 『21世紀の福音派のパラダイムを求めて』 日本福音同盟、2006年。
- 鈴木範久 『日本キリスト教史 年表で読む』 教文館
- 山口陽一ほか 『聖書信仰の成熟をめざして』 いのちのことば社
- 新教出版社編集部 『戦後70年の神学と教会』 新教出版社
- 第5回日本伝道会議 『日本開国とプロテスタント宣教150年』 いのちのことば社
- 「教会と政治」フォーラム編 『キリスト者から見る天皇の代替わり』 いのちのことば社

### <成績評価の方法と基準>

- 授業参加度 (Class Participation) 30 %
- 中間レポート (Midterm Report) 40 %
- 期末レポート (Final Report) 30 %
- 発表はレジュメを用意して20～30分、レポートはA4用紙に6000～7000字。

### <準備学習等に必要な時間>

毎週1時間、発表者は10～15時間

### <課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

### <その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

**<授業の内容とねらい>**

本コースは、現在のキリスト教の主要な教理体系が、歴史的にどのような変遷をたどりながら形成されてきたのかを学ぶことを主な内容とします。すなわち本コースは、伝統的にはいわゆる「教理史」として扱われてきた内容です。それは単に歴史的観点から扱うのではなく、キリスト教史もしくは教会史と組織神学（教義学）の間に位置する学際的な分野としての位置付けを持っています。本来、教理史の内容はまことに膨大なものですが、十週の限られたスケジュールですので、通史として全体を扱うことはせず、プロテスタントの組織神学の観点から重要と思われる教理に焦点を絞りながら、それらが形成されてきた歴史の背景や、そこで交わされた議論を探り、神学的な論点がどこにあるのかを確認しつつ、その上で実践的かつ今日的な意義を学ぶことを目指します。また、授業の準備にあたっては、毎回、関連する一次資料を読んでいただきます。一次資料を神学的・歴史的に読み解き、分析する力を養うこともまた本コースのねらいです。

**<授業テーマと内容>**

- 第1週 福音の準備（ヘブライズムとヘレニズム）・キリスト教の垂流・公同の教会・弁証家
- 第2週 三位一体論の形成
- 第3週 キリスト二性一人格論の形成
- 第4週 自然と恩恵・東方教会（神論・キリスト論）と西方教会（人間論・救済論）
- 第5週 中世神学・スコラ主義神学・中世末期の思想
- 第6週 プロテスタント宗教改革（1）
- 第7週 プロテスタント宗教改革（2）
- 第8週 急進派宗教改革・カトリック宗教改革
- 第9週 正統主義・啓蒙主義・敬虔主義・ロマン主義
- 第10週（特別回）感染症と向き合う教理史

**<到達目標>**

- ①三つの目標があります。①今日、キリスト教の教理体系として受け入れられているものの形成過程にどんな思想や背景があったのか、その歴史の大枠を把握します。
- ②そうした大枠を把握することで、キリスト教の教理体系が机上の空論ではなく、世の政治思想や人々の生活と密接に繋がった有機的な「生き物」であり、そうした教理形成が、歴史における「教会」や「キリスト者たち」の信仰のかたちを形成してきたことを理解します。
- ③上記のような「生きた」教理理解を得ることで、今日の教理的課題に向き合う正しい姿勢を歴史的・神学的・実践的に培っていくことを目指します。

**<授業方法>**

講義, 発表(プレゼンテーション)

**<(\*)教科書・参考書>**

- J.ペリカン著、鈴木浩訳『キリスト教の伝統：教理発展の歴史』第1-5巻
- A.E.マクグラス著、神代真砂実訳『キリスト教神学入門』教文館

**<成績評価の方法と基準>**

- 授業参加度 (Class Participation) 30 %
- リフレクション (Reflection Papers) 20 %
- 期末レポート (Final Report) 50 %

**<準備学習等に必要な時間>**

リアクション、フィードバックのため、毎週280分を確保してください。

**<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>**

リアクションペーパー、フィードバック、レポートそれぞれにフィードバックを返します。

**<その他履修上の注意点>**

J.ペリカン著、鈴木浩訳『キリスト教の伝統：教理発展の歴史』第1-5巻が主要な参考書となります。学生には高額ですので、図書館のリザーブ図書に指定します。  
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。